
心の中の闇 ~ココロノナカノヤミ~

双希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心の中の闇 ～ココロノナカノヤミ～

【Nコード】

N4023F

【作者名】

双希

【あらすじ】

彼女は自分を闇と思い、全てから拒絶された存在。しかし、新たな仲間たちとの戦いで心を変えていく。

第一が終わったので、それにあわせて名前変えました！

プロローグ

なぜ？

どうして？

暗い、暗い、心の中。

昔はもっと明るかったのに。

昔はもっと綺麗だったのに。

闇に染まってしまったのは何時頃だろう。

光を嫌うようになったのは何時頃だろう。

分からない。

わからない。

ワカラナイ。

どうすればいい？

この闇を消し去るには。

消し去る？

違う。

ああ、

私の心は光なんて無かったんだ。

綺麗なんかじゃ無かったんだ。

だって、元々闇だったんだから。

闇に染まってなんかいなかった。

だってもともと闇だったのだから。

明るく綺麗なんかじゃなかった。

だってもともと穢れてたのだから。

ああ、

やっと分かった。

長い間悩み続けて、私を苦しめていた心の謎が。

簡単な事だ。

私は光を取り戻そうとしていたのではない。

光を求めていたんだ。

だって、元々闇だったんだから。

ブログ（後書き）

始まりました。

まだまだ素人ですがのんびり更新して行きたいと思います。

第一夜 日常の中の非日常（前書き）

彼女の名前は「薙神エリ（ながみえり）」です。

注意

これより下は少し痛い文です。

苦手な方はご注意ください。

第一夜 日常の中の非日常

「エリー。早く起きなさい。」
下から私を呼ぶ声がする。

いつもと変わらぬ日常。

何百回、何千回と繰り返してきた日常が今日もやってきた。

身支度をして、食事をしながら家族とたわいもない会話をして学校へ登校する。

「おい、見るよアイツ。今日も学校来やがったぜ。」
「ウソ！今日もあの子来たの！？」
「マジかよ、ここはアイツみたいなやつが来る所じゃねえのにな。」
「どうしよう、ウチ今日早退しようかな。」

自分のクラスに向かう途中の廊下から聞こえる話し声。
その内容は自分への拒絶の言葉ばかり。

学校の生徒のほとんどは皆私を「悪魔」と呼ぶ。

「悪魔の子」や「魔物」、「化け物」とも呼ばれる。

教師も、私には滅多な事が無い限り話し掛けたり、近づいてきたりはしない。

理由は、

ワタシガ、イシツナモノダカラ。

私は人には無い特別なチカラがあり、

そのチカラを通りすがりの生徒に偶然見られてしまったのだ。

私の噂はたちまち学校中に広がった。

「雑神エリは化け物だ、近づいたら殺される」と

その噂が広まった途端、今まで仲の良かった友達も私から離れていった。

それから私はクラスだけでなく、学校全体から孤立していった。

最初はとても苦しかった。

私は「特別なチカラはあるが、人を殺したりなんかしない」と必死に皆に訴えた。しかし、誰も私の言葉に耳をかしてはくれなかった。
。。。

そのうち私は一人でいることが好きになった。

一人でいれば誰も何も思わないし、私も傷つかなくて済むから。

家族は心配したが、私はただ「大丈夫、何にも無いよ。」と言って家族の前では何事も無かったかのように接していた。

いつものように学校での授業を終え、帰宅している時、私は歌を歌っていた。
私大好きな歌。この歌を歌うと、どんなに嫌な事でもすぐに立ち直れた。

私は夢中になって歌った。だから気づけなかった。

- - - 私の後ろ

から近づいてくる影に。

第一夜 日常の中の非日常（後書き）

更新遅くなってすみません。

これからも気長に待ってやってください。

第二夜 起源（前書き）

かなり遅くなりました。すいません。m() () m
これからも見てくれるという心優しい方々には申し訳ないですが、
気長に待っていてくださいますととても嬉しいです！

マメに次話投稿できない未熟者ですがよろしくお願いします！（）
0 ^ /（）

第二夜 起源

エリは歌を歌いながら自分に問いかけた。

どうして皆分かってくれないの？
私は誰も傷つけたりしないのに。

だってアナタは・・・だもの。

え、誰っ?!

突然頭の中に響く声。

エリは驚いて後ろを振り返ったが、そこには誰も居なかった。ここには今エリ以外誰もいない。
はっきりと聞こえなかったので何を言ったか分からなかったが、その声はエリの悩みを答えてくれるような不思議な声だったため不快感はしなかった。

なぜ皆私を悪魔と言うの？私は人間なのよ。

エリは声に問いかけた。

でもチカラを持っているでしょ？

今度はしっかりと聞こえた。

チカラを持っていたら悪魔なの？

いいえ、アナタは悪魔じゃない。アナタは特別よ。選ばれた存在なの。

特別…、
私は悪魔じゃないの？

ええ。でもアナタの心は人間たちによって闇に変えられてしまった。

声は悲しく残念そうに言った。

私の心が、「闇」に？

そう、そうよ。

アナタの心は「闇」に染まってしまった…。
分かるでしょ。内に秘めている人間への「憎しみ」が。

「人間」への「憎しみ」…？。

いいエリ。人間たちはいらぬゴミよ。

何のチカラも持ってないのに自分たちが一番偉いと思っている。

偉いと思っているが故に自分たちの為に草木を灰にし、水を砂と化し、動物たちは喰われ、飼われ、狩られる…。

皮肉なものよね。

人間だけが自然の輪「食物連鎖」の中にはいない。

人間たちはこんなにも世界を掻き乱しているのに奴等は動植物によって自分たちの生活や命を掻き乱される事が無いなんて。

私が何を言いたいか分かる？

これを繰り返していたら…

((世界が人間により、殺される。))

エリと声の思考が重なったその時、
いきなり足元から黒い影の様なものに包まれ、
エリの意識は途切れた。

翌朝

目が覚めるとエリは自分のベットの中心であった、
昨日の事を思い出そうとしても記憶は歌を歌いながら帰宅していた
所で途切れていた。

(昨日いったい何があったんだろう?)

エリは疑問に思いながらも
制服に着替えてリビングに向かった。

第二夜 起源（後書き）

誤字があったら言って下さい。なるべく早く修正します。

第三夜 箱が開くとき

学校に着くとまた生徒たちの話し声が聞こえた。

「うわ、また来やがったぜ。

さっさと消えてほしいものが。」

（大丈夫、いつものこと）

エリは早足に生徒たちの前を歩いていく。

「あゝあ本当だ。

いい加減俺たちの前から消えろよ。」

（大丈夫、大丈夫）

エリは自分に言い聞かせながら
さらに早足で教室に向かう。

「そうだよねえ〜V

そろそろ先生に「悪魔」の退治方法教えてもらおうよVV!!」

（え?）

「バカ、それは一度聞いてるだろうが。

聞いたらセンコーの奴「なに言ってるんだっ、彼女は悪魔ではない!!。第一生徒にそんなこと出来るわけ無いだろうっ!!」ってキレやがった。どっちがなに言ってるんだ、だ。本当はもう生徒だつて思つてないくせにな。素直に「化け物」が怖くて無理だと言え
ばいいのに。」

(つつつ!!)

エリは思わず足を止めてしまった。

皆が自分のことを化け物扱いして悪口を言っていたのは知っているが、

まさかそこまで怖がられているとは知らなかったからだ。

しかし、

エリはそこで足を止めてもすぐに歩き出すべきであった
たとえ今の言葉にショックを受けていたとしても……。

「ねえ思っただけだよ、」

先生に出来ないんならさ、

皆で一緒に殺さない？」

(クロス……?)

その言葉を聞いたとたん

エリは絶句し体が固まるのを感じた。

「だってさあ、このままあの化け物をこの学校に置いといたらあなたたちの方が危ないじゃん？ならさあ、殺られる前に皆で殺っちゃおうよ！」

「ああ、それいいね!。」

そうすればうちらもあいつの事気にしなくてすむもんねえ」

女子たちが口元に笑みを浮かべながら言った。

「そつだな！それがいい!!」

皆で口合わして正当防衛だって言えば警察に捕まることもない。」

「それにいゝ、「悪魔」を倒したらうちらちよースーパーヒーローじゃね？」

「いえてる〜（笑）」

「あんた今日冴えてるね！」

面白そうに声を上げて笑う生徒たち。

だが、もうエリには何を話しているか分からなかった。ただ、今心の中にあるのは強い悲しみと絶望と周りの人たちに対する「憎しみ」だけ……。

エリは気づいたら自ら言葉を発していた。

「ねえ、あんた達さあ私が黙っているからってなに好き放題言ってるの？」

何のチカラも無いくせに。

私を殺す？はっ笑わせないでよ、あんた達のようなゴミの人間が私を殺すとかほざいてんじゃないわよ。

我慢の限界とか言ってるなにも我慢してないじゃない。

私の方が我慢の限界よ。

だって今まであんた達を殺すのを我慢してたんだから！」

（あれ、何なの

勝手に言葉が出てくるっっっ！！）

「私は今までずっと我慢してきたのよ。

あんた達がずっと私への“拒絶”の言葉を聞きながらね！！。」

（やっやめて！私はそんなこと言いたくないの！！）

エリは必死になって口を閉じようとするが、
そんなエリの努力も空しく、エリの最も言いたくなかった言葉が出
てしまった。

「私 はあ のと いっ つ イ!!!」

その瞬間、エリの目の前が真っ赤に染まった。

第零夜 これが本当の始まり（前書き）

後書きに追伸を書きました。

紛らわしくてすみません。 m (((m

第零夜　これが本当の始まり

ぴちゃん。

赤い雫が赤い水溜りにおちる。

水溜りには綺麗な円の波紋が広がっていく。

教室いっぱい広がるその波紋をエリは冷めた目で見つめていた。

だが、その不気味な光景を誰も見ようとはしない。

いや、“見ようとしなない”のではなく“見れる”人がいない。

今この場所にいるのはエリだけだ。

赤いそれはどう見ても“血”。

明らかに一人分ではない量の血である。

だが、どこを見てもその血の持ち主たちはいない。

見渡して確認できるのは床に広がった血と

壁や天井に塗りたくられた血だけである。

エリは教室を横目で見ながら廊下に出た。

廊下にも人影はなく教室と同じ様に血で赤く染まっていた。

ばしゃん。

エリは血で足を濡らしながら歩いていった。

昇降口から出ると空は青く晴れ渡っていた。

そして地は赤黒い色をしていた。

「っ、っ?!?!?!」

はっとしてエリはびくりと固まった。

ふふ、びっくりした?

あの声だ。

ほっとしてエリはすぐに緊張が解けた。

どうだった?初めての“幻”^{げん}は。

「“幻”?」

あれ?覚えてないの??

何が、と思ってエリが何気なく学校へと視線を向けた瞬間
エリの顔は氷のように青ざめた。

あちこちの窓から流れ出てる血
そしてさっきエリが出てきた昇降口の段差から垂れる血。

よく見れば周りの建物も同様に血が滴っていた。

それは先ほどエリが見つめていたものだが、記憶にないエリはあまりの光景に恐怖を感じて叫びながらその場にぺたんと座りこんでしまった。

「な、何よこれえ……。。」

？これは血よ。あなたがやったんじゃない。

「わ、私が?!」

そんなはずない！私は何もしてない、するはずがない!!

ふうん。じゃああなたに付いてるソレはなあに？

「……………つ!!!」

いや。私じゃない…!

血に塗れた服。

服はエリがやったことを示していた。

「いや、ちがう、、わたしじゃ、ないの、、。」

エリは自らの両腕で自分を抱きながらカタカタ震えて同じ言葉を繰り返した。

エリは恐怖心が強すぎて気づかなかったが、そのすぐ後ろには煙が出来て、次第に濃くなって集まっていった。

やがて人型になったそれは言った。

可哀想なエリ。そんなに震えて・・・。

そして声は後ろからエリを抱きしめて耳元で囁いた。

でも安心して？私があなをここから連れ出してあげる。

永遠にね

そう囁いた瞬間、

声の手がエリの体を貫き心臓を握り潰した。

第零夜 これが本当の始まり（後書き）

ここまで読んでくださってありがとうございます。

恐らく読んで「は？」と思った方がとても多かったと思います。

（笑）

さて、ここからはルート別にしようと思っています。

一つはおなじみのD・Gray・manのシリアスルート（Dルート）。

そしてもう一つはあの家庭教師ヒットマンREBORN!のギャグルート（RE・ルート）にしようと思います。 え

最初はシリアスでいこうと思ってましたが、
いかんせん、ギャグが足りない!!（TOT）

でも、シリアス書きたい……。ということで制作しよう!となりました。（笑）

では最後に主人公のプロフィール（遅っ

雑神エリ（17歳）

黒目黒髪の腰までであるストレートで、顔立ちは可愛い系。

身長は165?。体重は秘密だが細身。

こんな感じです。

それでは、ここまで読んでくれた方ありがとうございます。

そしてこれからもよろしくお願いします。（^o^）ノ

追伸

この小説でルートの物語を書くことはありません。

続編として別々に連載します。

かなり気まぐれに更新されます。

ご迷惑をお掛けしますが、何卒宜しくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4023f/>

心の中の闇 ~ココロノナカノヤミ~

2010年10月9日04時56分発行